



## 園芸作物栽培に関する

# これからの対策 と Q&A

### ◎圃場準備

連作にならないように、作付け計画を作りましょう。また、天気を見計らって圃場に残っている野菜の残渣等を整理し、石灰を散布して荒起しをしましょう。堆肥を施用する場合は早めに（定植まで1ヶ月以上）の間を取ることで、土壌混和しておきましょう。特にマルチ栽培をする場合、未熟有機物を施用すると発生するガスで生育が阻害される場合があります。ジャガイモには使わない方が無難です。この時期はまだまだ寒いのでホカシや油粕、有機質肥料などを利用される場合は肥効の発現がかなり遅いので早めに施用する必要があります。単体ではなく、化学肥料と併用することをお勧めします。

### ◎越冬野菜の管理

冬の間は体力を消耗しているため、早めにごさい3号等の速効性の肥料を施用して中耕しておきましょう。消雪後か2月下旬に1a当たり3〜4kg程度施用します。4月中旬以降の施肥はしないください。マルチ栽培の場合は露地栽培に比べて肥料の流亡が少ないので、追肥は上記の半分位の量を施用してください。（液肥で施用するか、降雨前を狙ってマルチ上に散粒します。）  
3月は霜による被害が出やすい時期です。越冬作物の中ではソラマメの茎葉やジャガイモの新芽が凍害を受けて以降の生育が悪くなってしまうので、芽が伸び出してくる時期が最も霜の影響を受けやすいので、降霜が予想される夜は不織布（バオバオ等）で覆い保護してやりましょう。タマネギ、ニンニク、イチゴは寒さには強いですが多湿に弱いので、排水対策と合わせて2ポルター等の殺菌剤を散布しておきましょう。  
エンドウ、ソラマメは根が深く入るので圃場排水が第一です。春先の強風で作物が株元から揺すられないよう土寄せを行っておきましょう。エンドウは

伸び始めたら早めに支柱に結束してやりませう。



市販の育苗器

### ◎自家育苗について

野菜の苗代も馬鹿になりません。5月中旬までに植えるつもりであれば、室内の日当たりの良い窓辺を利用して育苗できます。市販の小型育苗器を使えば上手くできます。ポイントを押さえて挑戦してみてください。

#### お問合せ先



東部ふれあいセンター内  
営農生活課 担当：高橋  
TEL.0778-51-8004

バックナンバーはJAたんなんホームページ  
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。

### 主要野菜の発芽適温

15~20℃	タマネギ、ミツバ（変温）、シュンギク、レタス、ホウレンソウ、パセリ、カブ、セロリ、エンドウ
15~25℃	ネギ、ニンジン
15~30℃	ダイコン、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー、カラシナ
20~25℃	ハクサイ、ソラマメ
20~30℃	トマト、ピーマン、ウリ、インゲン等、ナス（変温→昼16時間30℃ 夜20℃）
25~30℃	メロン、カボチャ、キュウリ、スイカ

市販の種まき培土を使っておください。やや高くてもタキイ等の有名な商品を使った方が失敗は少ないです。

### ◎容器と管理

6cmポットか72穴のセルトレイを利用します。播種、覆土後に新聞紙を被せてください。育苗器を使用しない場合は、適当な大きさの発泡スチロール容器か半透明のプラスチック衣装箱に入れ、透明ビニールなどで覆います。

### ◎育苗培土

⑥ネズミやナメクジ、ネキリムシによる食害。  
⑦種子が古い、または管理が悪かった：種子が古くなると発芽率が悪くなるものもあります。また、買って帰る途中の湿度の多い場所や暑いところなどに置いておくと発芽率が下がってしまいます。種を保存する場合は、冷蔵庫で保存してください。なるべくペーパー袋の中に使いきりしましょう。  
⑧酸素不足：発芽時には呼吸作用がさかんになり多くの酸素を必要とします。深く種を蒔いたり、時き床が水浸しになって酸素不足が原因で発芽できない事もあります。  
⑨硬実の種を吸水させずに蒔いてしまった：アサガオなどの硬実の種は、必ず種が水を含んだのを確認してから蒔きましょう。芽が出てこないときは、蒔いた種を指でなぐると硬い種が出てきます。これを再び取り出して、傷をつけて水を吸わせてから蒔くと発芽します。

### ◎発芽温度

野菜の発芽適温は概ね22〜28℃で良く揃います。家庭ではそれより温度が低いので時間がかかり発芽はバラツキますが、ために管理をすればほとんど発芽してきます。注意すべきは晴天の日の日中の高温による影響です。日中はビニールをずらして換気できるようにし、夜間は覆うようにしてください。温度計を入れて管理しましょう。

### ◎発芽しない原因

①土の乾燥：せっかく芽が出ようとしているのに、水切れさせてしまったケースです。芽は土中で枯れてしまつたので、もう発芽しません。不織布や寒冷紗で覆って水分安定を図ります。時き床の土はいつも適度に湿っている状態を保つ事が大切です。  
②水の与えすぎで種が腐る：大粒の種子の場合、芽が出てこないのはこういう場合が多いものです。種まき用土はなるべく水はけの良いものを使いましょう。また、大粒種子の場合は土が乾く直前まで水を控え、過湿状態にならないように管理するのがポイントになります。芽が出る前に雨に当たるのは避けたいですね。  
③発芽適温を守れなかった：地温が高すぎたり低すぎたりするのはよくある例です。時き床をガラスなどで覆っておくと、温度・湿度が異常に高くなり種が湯だつて腐ってしまつたことがあります。発芽温度には十分注意しましょう。地温計などで確認することが大切です。  
④水やりの水が強すぎて種が流れた：せっかく薄く均等にまいても、上から強く水をかけると種が流れてしまいます。種は横に流れるだけでなく、奥深く沈む事もあります。結果的に超深植えになって、発芽不良になることもあります。播種後の水やりは、大粒種子をのぞいて、底面吸水させるかハンドスプレー等で優しく水をやります。シュロを使う場合はノズルを上向きにしてください。

⑤未熟な用土を使った：完全に醗酵していない未熟な腐葉土などを種まきに使つと、醗酵熱やガスが発生して、せっかく出ようとした芽を傷めてしまいます。腐葉土や堆肥は完全したものを蒔くのが鉄則です。

### ◎発芽管理

発芽が始まったら（少しでも土から芽が出たら）、新聞紙は早めに取り除きましょう。遅れると徒長して軟弱な苗になってしまつたので気を付けてください。（早いもので1〜2日で発芽するので、こまめにチェックしてください）

### ◎水やり

育苗土の表面が乾き始めたら、水を与えましょう。水は20℃くらいのぬるま湯を午前中にやってください。

### ◎育苗温度

夜間13〜15℃。特にピーマンは15℃を下回らないようにしてください。

### ◎鉢上げ用ポット

大きめにしているのは、9.5cm、10.5cm、10.5cm、10.5cm、12cm鉢の方が良いですが、用土の量も必要になってきます。また、重い土では鉢が大きくなると湿度を誘発する危険性もあります。自家育苗の場合は10.5cm鉢がお勧めです。



徒長した苗